

---

# 君との距離

柊也

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君との距離

### 【著者名】

柊也

NZP-1  
20859X

### 【あらすじ】

近くて遠い君との距離  
2人の主人公の気持ちを  
それぞれ描いていきます

## 1話 売る初恋

「お前さあ、美穂のコト好きだろ?」

違うつて!!

「ウソつだ~」

別に、好きじゃねーよ

友達は、毎日俺をからかつてくる  
口では、違うと言いつつも  
目はしつかりと彼女をとらえていた

加藤美穂。

明るくて

スタイルがよく  
なにより、笑顔がかわいい

クラス、いや学年で人気の女子だ

好きなんかじゃないよ…

心の中で、自分に言い聞かせた  
でも、ドキドキが止まらない  
今まで味わったことのない気持ち  
これが「恋」なのかな…

-ある日-

「席替えするぞー」

先生の一言で、みんなは飛び上がった  
あなたのクラスでも1人はいるだろう  
席替えになると妙にはしゃぐやつが

僕もその中の一人だつた

誰となりたい！！

とかは、別にないけど

なんとなく楽しい

くじで決める席は緊張やワクワクでいっぱいだ

えつ！？

俺の隣は…加藤美穂！？

みんなが羨ましそうにこっちを見ている  
いろいろ、考えていると

彼女の方から話しかけてきた

「えつと…ヨロシクね

松永…亮くん？」

「う、うん…こちらこそ」

緊張しながらの挨拶

すると、いきなり彼女は  
「ねえねえ、いきなりで悪いんだけど…

亮くんって呼んでもいい？」

「好きに呼んで…いいよ」

いきなりのことで一瞬びっくりしたが

明るい彼女なので、それほど不自然ではなかつた

人懐っこい性格で、クラスでも数人の男子を下の名前で呼んでいる  
のを知っていた

「亮くんって、彼女さんいるの？」

一瞬迷つたが、質問に答えた

「いないよ」

「ふうん

いつもより疲れた一日だった

## 1話 売~初恋~（後書き）

もしよろしければ、続きを読む参考にしたいと思いますので  
感想と評価をお願いします

## 2話 美穂（運命）

休み時間のチャイムが  
学校中に響き渡る

美穂は、友人の友美に駆け寄る

「ねえねえ。亮くん、彼女いないんだって！…」

「良かつたねえ。美穂」

「うん！…」

そこに、麻衣が来た

「でも、本当、美穂は亮のコトが好きなんだね」

麻衣は亮と幼馴染だ

「うん！…あたりまえぢゃん」

「聞いた話によると、亮もあんたのコト気にしてるらしいよ」

「え？ そんなの噂だよ」

「つま。自分で確かめな」

ー次の時間ー

「ねえねえ。」

「なに？」

「亮くんつて、気になる人とかいる？」

「え…い、いないよ」

（あなたです。とか言えるわけね～）

「そつかあ…」

(やつぱり噂なのかな)

お互いがお互いを意識しあつてゐ  
これつて、運命なのかな、、、

2話 美穂～運命～（後書き）

評価下せーーー！

### 3話 亮々好意

ここ1週間。

美穂と話す回数はだんだん増えてきた  
まあ、隣の席なんだし  
あたりまえといつたら  
あたりまえなんだろうけど・・・

美穂は、頭も良かつた

苦手な、英語を最初から全部  
そして、分かりやすく教えてくれる  
俺は、だんだん美穂に引き込まれていった

胸が、熱くなる

これが、「好き」とゆう気持ちなのか  
今まで、一度も人を好きになつたことがない  
だけど、美穂と話すたび  
心が熱くなる

亮は美穂に、いつしか、好意を抱いていた

携帯の着信音

(誰からだろ?~)

「美穂でーす」

「こんにちわ（。・・）ノ、  
麻衣からメアド聞いたやつた

いきなりで、ほんと「ゴメンね」。

隣の席なんだし・・・亮くんの口ト  
色々知りたいなあつて、思つて。

迷惑だつたら「ゴメンね」（――）m

（美穂！？）

俺はメールにマメな方ではないが、美穂は、別だ。  
すぐに、文字を打ち始める

「大丈夫♪（。・・。） オッケー！」

いきなりで、ビックリしたよ（^ ^;）  
全然、迷惑じやないよ。

アドレス登録しといたからね〇（ ）〇

いつでもメールして。

俺はこの時、美穂のコトを本気で、好きになりかけていた。

3話 亮々好意々（後書き）

感想 & 評価下さい

## 4話 美穂～勇気～

「ふう……」  
(やつぱりメールって、なんか緊張するなあ……)

この数日間

メールのやり取りをしていたが、まだ緊張する

ー次の日ー

「おはよー」  
「おはよー。麻衣」  
「メールはどうよ?」  
にやにやしながら聞いてくる  
「どうって……普通だよ」  
「顔が赤くなっていますぞ~」  
「もうーーー！」

ふと、廊下の掲示板に目をやる

「あつ」  
「美穂?…どしたの?」  
「来週、花火大会だ」  
「おつはーー」  
「友美。おはよ」  
「それはそうと、誰と花火行くの?」  
「え? 麻衣、一緒に行こうよ」  
「ゴメン。うち毎年花火は家族と見るって、決めてるんだ」  
「友美は、一緒に行ってくれるよね?」  
「うちは、彼氏と行くよ~」

「え~私、一人じやん」

「亮誘つてみなよ」

「うん。それがいいかも。美穂」

「うん…」

(直接言つのは、なんか恥ずかしいな。メールで言おう)

-----  
「お知らせです(笑)」

-----  
来週は、何の日でしょーか?

正解は、`、`

花火大会だよ

麻衣も友美も家族とか彼氏と行くんだあ(ノ＼・。)

私、一人ぼっちです

そこで、一緒に行きませんか?

私的には、2人きりの方がいいけど。。。

お返事待つてます(（○(^\_^)○）わくわく

イヤだつたら、別に大丈夫だからね(・ー・?)

-----

美穂は、勇気をだして

送信ボタンを押した。。。。

5話 亮<sup>→</sup>約束<sup>→</sup>(前書き)

更新遅くなりました

## 5話 亮の約束

いつも通りの着信音  
しかし、メールの内容を見た瞬間  
亮は、心躍る気分になった

それは、美穂から花火大会へのお誘いだつた  
しかも、メールには2人きりと書いてある  
すぐに、メールを打ち始めた

「ありがとう」

誘ってくれてありがとう(・\_・。)  
俺もその日は空いてるよ  
一緒に行こうや

返信完了と。。。

一当日ー

亮と美穂は夕方に、待ち合わせをしていた

「ゴメン。待たせちゃって」

「俺も、今来たとこ」

美穂の姿を一目見て

亮は心臓の鼓動が早くなっているのに気が付いた

美穂の服装はピンクの可愛らしい浴衣だった

「どう？？似合ひ？」

「す、ぐ綺麗。。。です」

「なんで敬語なの？？あはは」

くだらない話をしながら  
花火の会場へと向かつた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0859x/>

---

君との距離

2011年11月8日22時00分発行